パスカルの賭け

第５章

あえて神に賭けるか？

パズルの一杯：ハープ・アイリッシュ・ラガー

このパズルは、アイリッシュ・パブでパイントを賭けるものなので、ハープ・アイリッシュ・ラガーの１パイントとペアにしてみよ。アイリッシュ・パブでビールを賭けるなら、北アイルランドで一番売れているハープ・アイリッシュ・ラガーよりも良いものを見つけるのは難しいだろう。

多くの哲学者が神の存在を証明しようとしてきた。しかし、フランスの哲学者であり数学者でもあったブレーズ・パスカル（1623-1662）は、そのような偉業が可能であることを否定した。パスカルは 神の存在の可能性をコイン・トスに例えた。もしかしたら、コインは地面に落ちて《表》（神は存在する）を向けるかもしれないし、もしかしたら《裏》（神は存在しない）を向けるかもしれない。しかし、事前に結果を知ることは我々にはまったくできない。パスカルは、この点では悲観的であったにもかかわらず、自分自身を「信者」の一人として数え、もしあなたがかねてから信者でないならば、あなたを信者にするべきだと考える議論を展開した。

パスカルは、神の存在を証明しようとするよりも、神の存在を信じないよりも、《信じる》方が合理的かどうかという問題に焦点を当てた。彼の議論は、たとえ不確実性の条件下でも、ある選択は他の選択よりも合理的であるという考えに基づいている。

この考え方は、ギャンブラーにとってはずっと前から真実なのである。例えば、あなたがアイリッシュ・パブで、倦むことのないギャンブラーである友人と一緒に飲んでいるとしよう。彼は何にでも賭けるが、今夜は、これから 15 分以内に最もよく注文されるビールに賭けたいと言う。ここはアイリッシュ・パブなので、競争相手ははっきりしている。あなたはタップから目を離さないでいた。今夜は今のところハープとギネスのデッドヒートだ。しかし、どちらが勝つかあなたには見当がつかない。そして、あなたはオッズが自分に有利な時にだけ賭けるのが好きなので、この賭けには乗らないと彼に言った。すると彼はこう言って賭け金を上げた。「どちらでも好きなビールを選んでくれ。もしハープを選んで、君の方が正解だったら、今夜の食事と飲み物は全部俺が奢るし、帰りのタクシー代も俺が払う。君がハープを選んで間違っていたら、君は私に１パイントを奢るだけだよ。しかし、ギネスを選択して、君が正解なら、君に１パイントを奢るよ。ギネスを選んで、間違っていたら、君が今夜の食事と飲み物を全部奢ってくれて、タクシー代も出してもらう。

考えてみれば、彼が内部情報を持っていないか、何らかの方法で結果を不正操作していない限り、これはかなり甘い賭けだ。ハープに賭ければ、ほとんど損をしないし、かなりの利益を得ることができる。逆に、ギネスに賭けた場合は、かなりの損失を被り、ほとんど利益を得られない。ハープの選択に悩む余地はない。

パスカルは、神の存在を信じるか信じないかの選択は、絶対的な極限への賭けと同じようなものだと考えた。それは次のように言えるかもしれない。どちらの結果でも好きな方を選びなさい。神が存在することに賭けてもいいし、神が存在しないことに賭けてもいい。しかし、神の存在を信じていて、それが正解ならば、天国での永遠の命は君のものになるだろう。

また、もし神の存在を信じているが、それが間違いだとしたら、日曜日に教会に行く日を無駄にしてきたことになるだろう。しかし、もし神が存在しないと信じていて、それが正解だとしたら、何を得るのだろうか？せいぜいサッカーを観戦したり、ビールを飲んだりする日曜日が得られるだけだ。しかし、もしあなたが神の存在を信じておらず、それが間違いだとしたら、永遠に地獄に落ちることになる！

これは悩む余地のない究極の賭けだ、とパスカルは考えた。わずかな利益を得るために多くのリスクを冒す

ことになるのに、なぜ誰もが神の不在に賭けるのだろうか。特に神の存在に賭けることで、冒すリスクはとても少なく得るものはとても多くなるのに。

このリスクとリターンの仕組みの下では、神の不在に賭けようと思う合理的なギャンブラーはいない。しかし、我々は皆、賭けをせざるを得ないのだ。我々は皆それぞれ、信者として死ぬか、非信者として死ぬかのどちらかになる。だから選択をしなければならない。そして、パスカルの損得計算では、神を選択するという唯一の合理的な選択しかないのだ。

この議論はどれくらい強力なのか？ それはパスカルの最初の仮定の妥当性次第だ。そのため、ポイントをいくつか考えてみよう。もし神が存在するならば、それはキリスト教の神であり、神の存在を信じることに何らかの形で結びついた報いと罰を与える神であると、パスカルは仮定している。もしその仮定に立つならば、議論はかなり効果的である。しかし、その仮定に立たなければ、議論は深刻な問題にぶつかることになる。本当に神は存在しているが、それはキリスト教の神ではないとしたらどうだろうか。それがゼウスやボルタール、あるいは他の神を信じる者を嫌うだけの神だとしよう。この場合、キリスト教の神を信じるという行為そのものが、地獄に落ちることになるかもしれない。

もう一つの懸念は、パスカルの議論が宗教的信仰を「商品化」していることである。議論全体は、最大の個人的利益を自分にもたらすものなら何でもしたい、という個人の利己的な欲求に基づいている。このような身勝手さに神は感心されるのだろうか、と我々は考えざるを得ない。すなわち、そのような自己中心的な考えを持っている人に、本当に天国を与えてくださるのだろうか？ しかし、パスカルが言ったことは、ただ信じるだけで神があなたに報いてくれるという考えに結びつくものではない。神を信じるだけでは、救いを得るためには十分ではないかもしれないが、それは確かに必要だとパスカルは考えていた。それは宗教の道の出発点であり、パスカルの目的は、あなたを出発させることなのである。

あなたはどう考える？

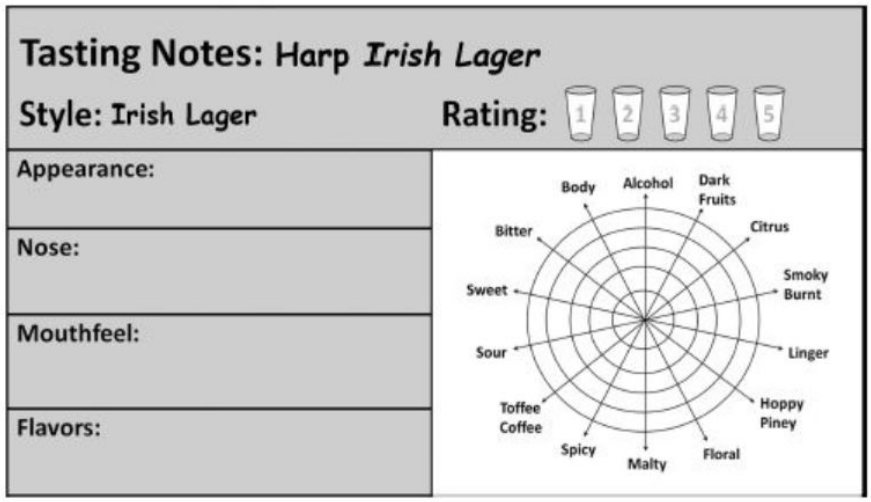
- 神の存在を信じることは、信じないことよりも合理的であるということの証明に、パスカルは成功したのであろうか？
- 神が存在するとしたら、自分の救いには何が必要かつ十分なことだと思うか？ 神の存在を信じるだけで十分であろうか？
- あなたは現在、神の存在はむしろ可能性が低いと信じているとしよう。しかし、あなたは、神の存在を信じないよりも、信じる方が良い賭けであるというパスカルの議論に、納得しているとしよう。だから、あなたは今、「信じたい」と思っている。今ここですぐに信じることを選ぶのは、あなたの力なのか？ あなたは今この瞬間に信者になることができるか？ それとも、神の存在の可能性についての考えを変えるような、証拠や経験をまず得る必要があるのだろうか？

あなたは知っていた？

- バイキングは、天国について独自の考えを持っていた。北欧神話によると ヴァルハラ（主神オーディンの宮殿）には巨大なヤギがいて その乳房から無限にビールが供給されるという。そうではないことに誰が賭ける？
- 神を信じることは「割に合う」という考えだけで、神の存在を信じることを単純に選択することは不可能だ、とパスカルは考えた。しかし、パスカルは、そのうちに信じるようになるような行動をとることはできると考えていた。パスカルは、信者のように「行動」するだけで（ミサに行く、聖水を飲むなど）、多くの人が真の信者になることはよくあると考えた。これが結局は、小さな子どもたちが信仰に入る方法なのである。
- パスカルは、「パスカリーヌ」と呼ばれる世界初の計算機を発明した。これにより、会計士の仕事 6 人分を 1 人でこなすことができるようになった。コンピュータ・プログラミング言語の《パスカル》は、《パスカルの三角形》同様、彼にちなんで名付けられた。後者は三面幾何学的な図形ではなく、三角形の形に

数字（二項係数）を幾何学的に配置したものである。

- ハープ・ラガーは、アイルランドやイギリスでビールを飲む人たちの間で、欧州大陸スタイルのラガーへの傾向が高まっていることを受けて、1960 年にダンダルクのグレート・ノーザン醸造所で初めて醸造された。

推薦図書

- Blaise Pascal, Pensees.（パスカル（前田陽一、他訳）『パンセ』中公文庫プレミアム）Projeft Gutenberg からオンラインで入手可能 http://www.gutenberg.org/etext/18269
- James Connor, Pascal's Wager: The Man Who Played Dice With God (New York: HarperOne, 2009)